

UTCP セミナー

私たちとギリシヤ人



本セミナーでは、まず、第二次世界大戦後のギリシヤのポリス解釈に対して、H・アーレント、C・カストリアディス、J-P・ヴェルナン、C・レヴィ＝ストロースらから寄せられた異なる解答を取り上げる。彼らの立論を比較することで、古代ギリシヤをめぐる問の現代的な布置が浮かび上がるだろう。次に、より広い視座から、古代ギリシヤをめぐる1980年代および90年代の知的状況を概観し、この状況が人文学（とりわけ古典学）に与えた影響を考察する。フランスの古典学の泰斗アルトールグ氏を究竟の導き手として、本セミナーでは、歴史と古典、歴史表象と現代思想、歴史とナショナルなもの、歴史と近代／ポスト近代をめぐる多様な問いが提示されるだろう。

2008年12月8日（月）16:30～18:30
東京大学駒場キャンパス 18号館4階コラボレーションルーム3

講演者：フランソワ・アルトールグ
(François Hartog フランス 社会科学高等研究所教授)

司会：高田康成 (UTCP)

使用言語：英語 入場無料 事前登録不要

主催：東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター (UTCP)」

共催：日仏会館フランス事務所